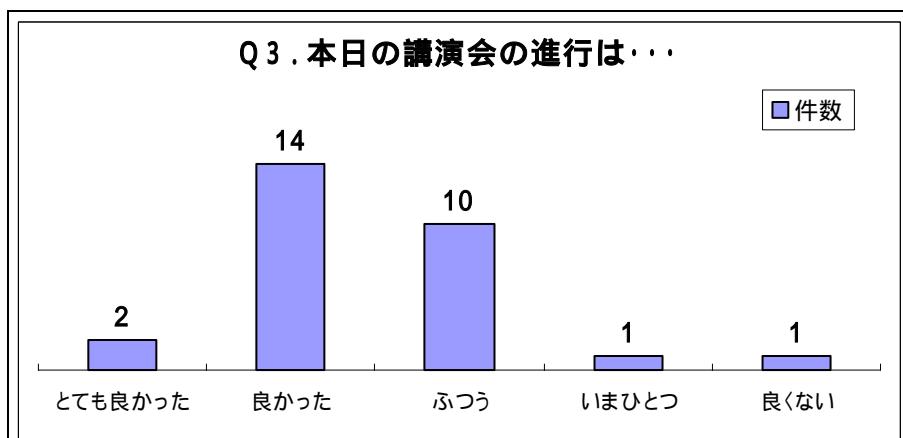
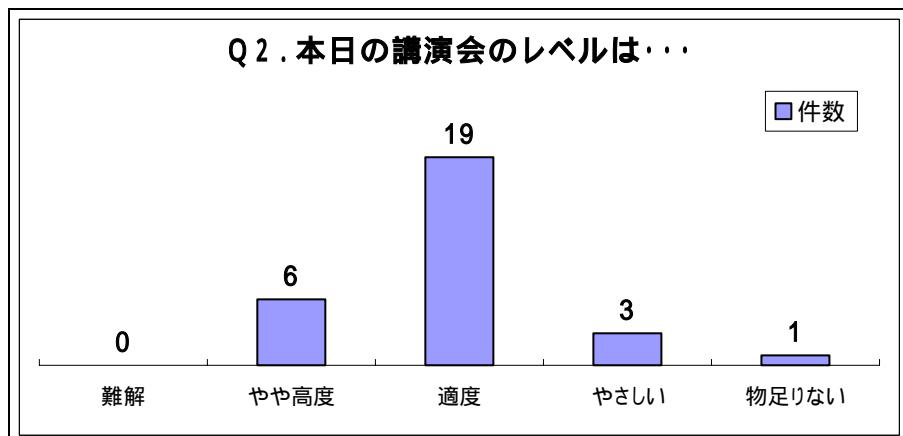
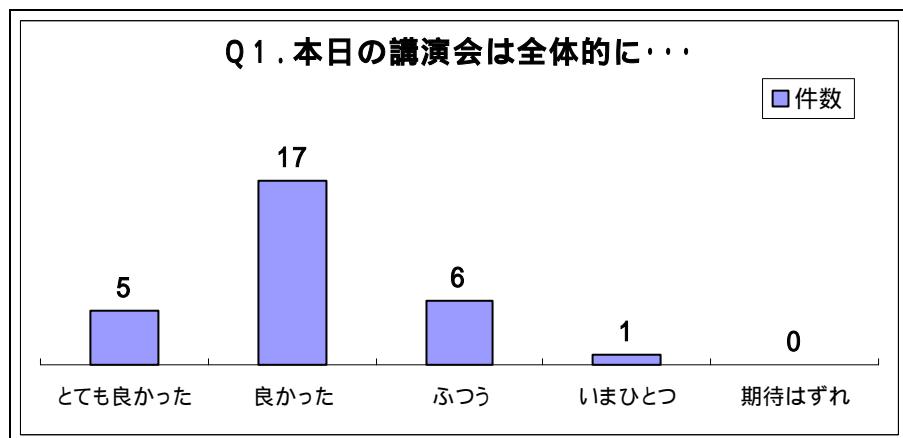
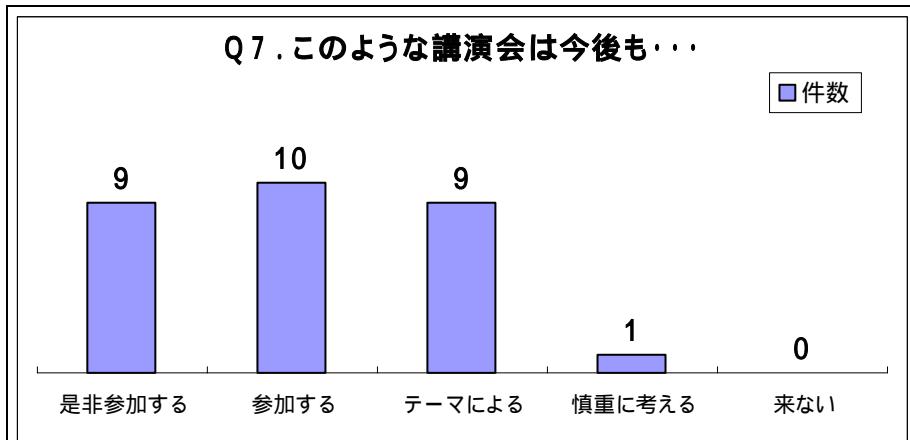
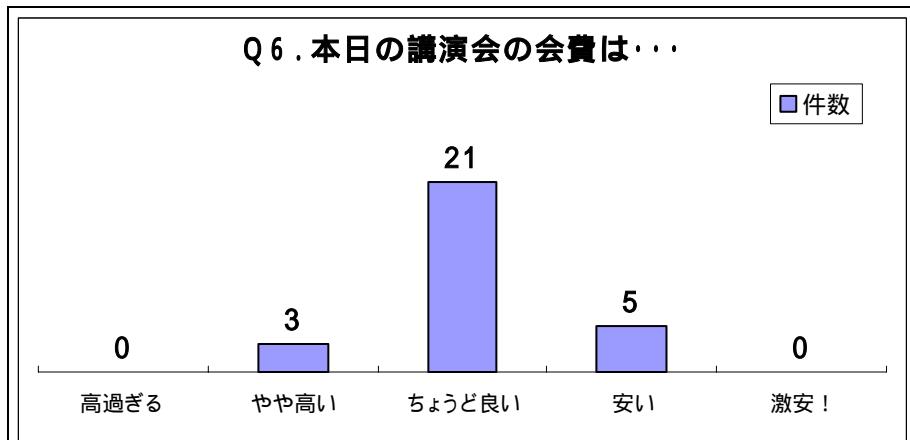
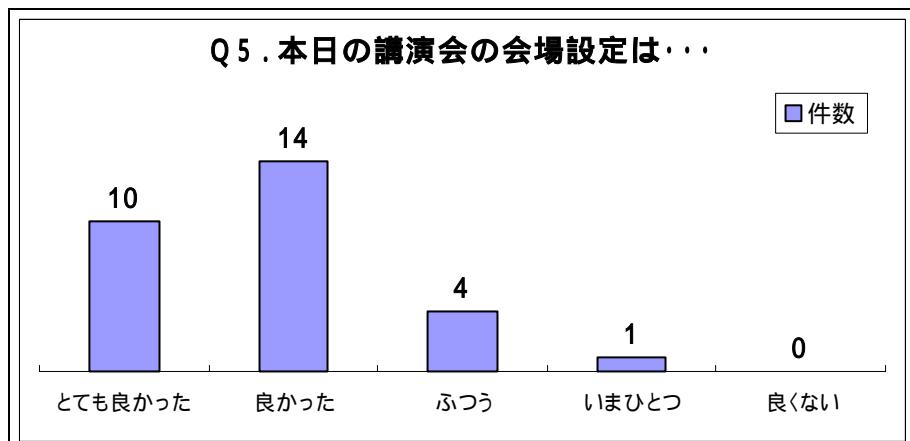
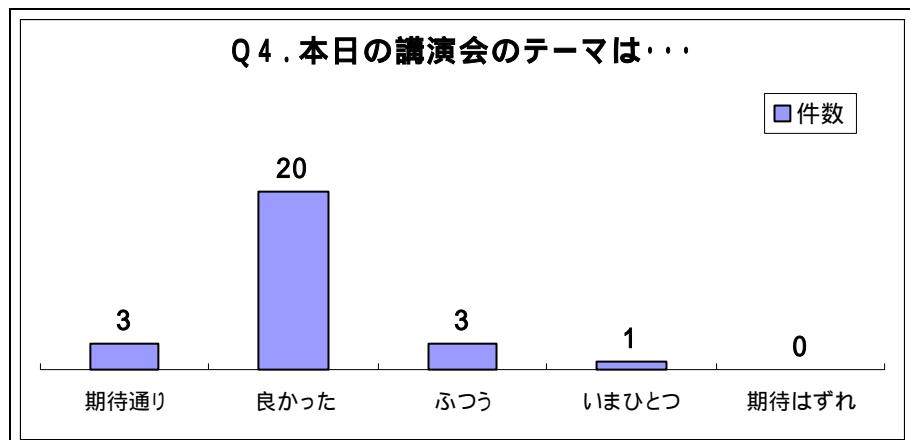


オープンセミナーアンケート集計

日付 : 2004年1月23日(金) 18:40~21:00
場所 : 慶應学術事業会・丸の内シティキャンパス内 エグゼクティブホール
発表者 : 上野山 達哉 氏 (福島大学経済学部助教授)
山下 勝 氏 (青山学院大学経営学部専任講師)
テーマ : 流動化の著しい業界における従業員のパワーダリーレス・キャリア~ホテル業界を例にして~
作成者 : 鈴木 美伸 email:y.suzuki@stage41.com





Q8. 今後、こういった講演会、セッションで、聞いてみたいテーマは何ですか？

- ・自己責任のもとでのキャリア形成。成果主義といった企業が個人に多くのものを求めるような流れの中で、会社は個人との関係をどこまで深めるべきか？(EAPの利用等)
- ・個人がキャリア意識をもつことと、企業の収益との相関。
- ・企業にとって都合の良い社員とは。
- ・本日のお話の中にもありましたが、経営的視点・心理学的視点双方から見たキャリアデザインについて聴いてみたいです。
- ・建設、ゼネコン業界についてのキャリア開発。特に心理面、組織論面の両方。
- ・ホテルのキャリア形成第2弾。
- ・業界研究。
- ・キャリア形成論。
- ・新卒採用～教育。

Q9. キャリアというテーマについて、現在、ご关心のあることは何でしょう？

- ・社員のキャリアデザインと会社にとってのメリットについて。企業が変化して行かなければならぬ時代に、社員も自律を求められるだとか、企業と社員のベクトルを最大限に近付ける等言われますが、もっと目に見える形でのメリットが無いのか、といったことに関心があります。
- ・「個人とキャリアと会社利益」。今回のテーマにも結びついていましたが、まだ企業理念と個人キャリアの良い関係が見えない。
- ・本当に日本の大企業は個人のキャリア自律を望んでいるのか？本当は新卒を採用して都合のいい（会社に依存して我がままを言わない）人間を作りたいのではないか？
- ・今回は組織論的でありましたが、心理的层面あるいはその折衷にて考えてみるとどんなキャリアデザインがあるのか？
- ・人材フローマネジメントの中でのローパフォーマー対策。
- ・ポジティブな要素を引き出すことを主目的としたカウンセリング。
- ・異業種に転職した後に前の業種に戻り、ノウハウをフィードバックするようなキャリア形成。
- ・キャリアカウンセリングは企業内でどう活用できるか？（具体的な事例について。）
- ・派遣社員に対し、派遣を受けた企業がキャリア相談にのる効果。
- ・フリーターの今後の動向、将来性。
- ・人間性。

Q10. 何でもご自由に本日の講演会のご感想をお聞かせ下さい。

- ・ホテル間での転職が多いことは興味深く伺いましたが、ホテル業界以外の業種への転職はあるのでしょうか？もし、業界間移動が少ない場合、本当の意味でバウンダリレスと言えるのか検討の余地があるように思います。（でも、と言いつつ「キャリア・コーンと新しいバウンダリ」のお話はかなり納

得的でした。その上で、)外資系企業にジョブ・ホッピングが多いのは他業界でも見られる傾向かと思いますが、リテンションに効果をあげている企業の施策は必ずしもメンターシップのような個対個の視点ではないように思います。それよりも理念浸透はひとつの実践によって prove されている策ではないかと思いますが…。

- ・ドライな人間関係とメンターシップは矛盾するような気がする。「ミニ社会」になるならば、人間関係は逆に深まるのでは?弊社は事業部間の異動が多く、同じような問題があるので、ホテルマンという同職種での移動ではなく、同企業での異動の研究もして頂きたい。また2つの抑制策とは別に考えられる抑制策があれば教えて頂きたい。
- ・今回は友人の紹介で初めて参加をさせて頂きましたが。私の職業柄(電機系研究職)、他の業界の方の話を聞く機会が少ないので大変貴重な時間でした。もう少し様子を見て、こちらからも意見させて頂くなど active に動きたいと思います。今後とも宜しくお願ひします。
- ・「スキル」については、業界を越えて共通している様に思います。
- ・調査の手法として客観性 or 妥当性はあるか?
- ・プレゼンターのプレゼンスキルに改善の余地あり。
- ・議論の時間をもっと取って欲しかった。
- ・もう少しディスカッションしたい。
- ・最後のディスカッションに時間をもっととると良いと思います。
- ・山下さんの語り口は金井先生に通じるところが多々ありました。
- ・両先生の熱心さが良く伝わってきました。
- ・実例があり良かった。
- ・大変興味深かったです。サンプルを増やして更に研究を進めて欲しい。
- ・非常に興味深かったです。また参加したい。
- ・貴重な機会をありがとうございました。
- ・ありがとうございました。

以上